

3-2 現地調査による現状の把握

市内の自転車利用の現状を、現地調査によって把握しました。写真撮影を行い、以下の三つの視点から地図上に整理しました。

- ① 自転車利用に関し留意すべき代表的な実態……図 3.22 参照
- ② 幹線系道路における自転車利用に係る実態……図 3.23 参照
- ③ 自転車利用による通学に係る実態 ……図 3.24 参照

図 3.22 自転車利用に関し留意すべき代表的な実態

		
<p>いちよう通りの歩行者と自転車が分離された歩道は自転車にとって走りやすい。</p>	<p>作新学院前の狭い歩道では石蓋や電柱が自転車走行の障害となっている。</p>	<p>栃木街道では部分的に歩道が広がっているが、有効幅員の狭い歩道が多い。</p>
		
<p>大通りの交差点部での自転車と歩行者の混在が発生している。</p>	<p>波打ちしている歩道の路面や側溝の出っ張りは歩行者・自転車にとってバリアである。</p>	<p>街路樹などにより歩道の有効幅員が狭い陽西通りでは自転車は車道を走行している。</p>
		
<p>JR 宮駅西口の歩行者動線上に自転車が放置されてある。</p>	<p>人通りの多いオリオン通りに無秩序に違法駐輪されている。</p>	<p>通勤・通学時、幹線道路の交差点では自転車と自動車がかみ合っている（睦町交差点）。</p>

図 3.23 幹線道路等における自転車利用に係る実態

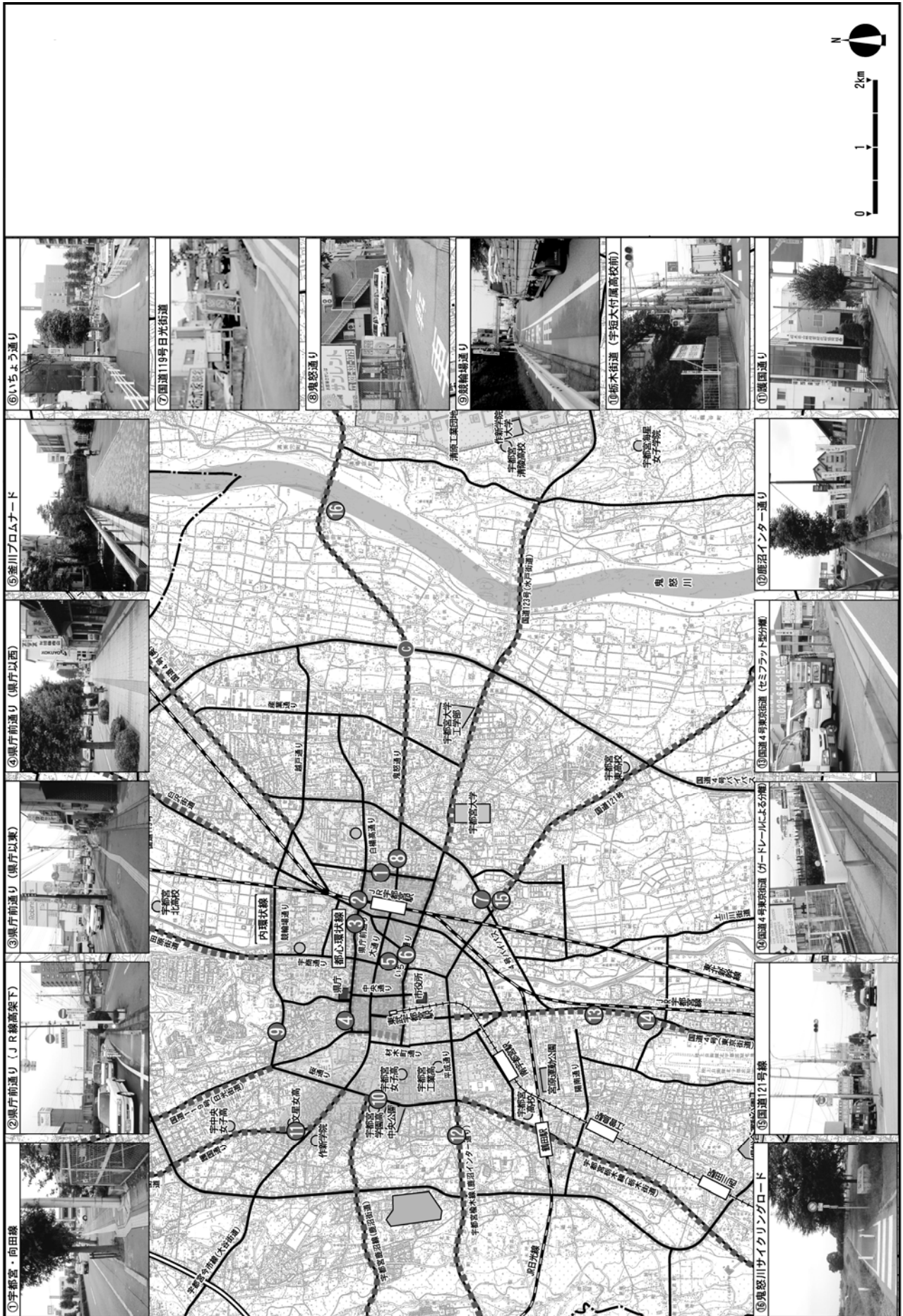


図 3.24 自転車利用による通学に係る実態

